

## 体育館、グラウンド新設

### 八学大構想 25年青森国体までに

総合体育館建設などの整備構想を明らかにする  
大谷真樹学長 21日、八戸学院大



八戸学院大の大谷真樹学長は21日、本紙などの取材に応じ、今後10年間をかけた新たな総合体育館や人工芝の多目的グラウンドなどを整備する構想を明らかにした。9月の理事会に提案

する。

同大を運営する学校法人光星学院は今年で60周年を迎える。大谷学長は節目に当たり、「地域と共存し、要請に応えたい」と整備構想に言及した。

構想では、体育館とグラウンドは大学キャンパスの敷地内に整備する予定。体育館は、2025年に青森県で開催予定の国民体育大会までに建設する方針で、八戸市がメイン会場になるバスケットボール競技を実施可能な施設にしたい考えだ。

このほか、「生涯学習センター(仮称)」を市中心街に整備する案も明かした。これらは理事会で承認されれば本格的に建設などに着手する。

一方、来年度に創設される地域経営学部については「国際的な感覚を持った地域の人材を育てたい」と強調。フィリピンの語学学校と協定を結び、学生らに積極的な語学留学を促していく意向を示した。(福田駿)